

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	龍谷大学	申請分野(系)	理工農系
教育プログラムの名称	東洋の倫理観に根ざした国際的技術者養成		
主たる研究科・専攻名	理工学研究科物質化学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 大柳 満之		

### [教育プログラムの概要]

本学は、我が国の仏教系大学の中で理工系大学院を擁する唯一の存在である。龍谷大学では、「共生を目指すグローバル大学」を標榜しており、この認識の上に、理工学研究科物質化学専攻においては、東洋の倫理観や考え方を基に、グローバルに貢献し得る(世界の水準で地域に貢献し得る)専門知識・応用能力を身に付けた高度な技術者の養成を目指している。この目的を達成するため、履修要項にも記載している通り、2005年度から以下のキーワードで示される6つの具体的な知識・能力を身に付けることを教育目標としている。(A)共生・循環の考え方、(B)グリーンケミストリーの考え方、(C)技術者倫理、(D)持続的学習と自己発現能力、(E)専門知識と問題解決能力、(F)国際的コミュニケーション能力。

これらの目標を効果的に達成するため、本課程では、教育研究の量や内容・形態に関して、以下の例に示す国際水準の斬新な教育システムを取り入れている。

1. 学習・教育の量を、博士前期課程において、**欧米並みの国際水準を目指し教育の実質化を行うために、2年間で64単位相当とする。**
2. 体系的な教育を実施するため、**授業科目や学位論文研究をモジュール化し、研究・実験・演習・講義の有機的な連携の基に、効果的な教育研究指導を行う。**
3. 高度な実践的技術力を身に付けるため、最先端の大型機器設備を用いた「高度物質化学実験・演習」を**少人数グループで実施する。**
4. 国際的コミュニケーション能力を養成するため、**海外拠点や専任ネイティブスピーカー等を活用した国際化施策を展開する。**

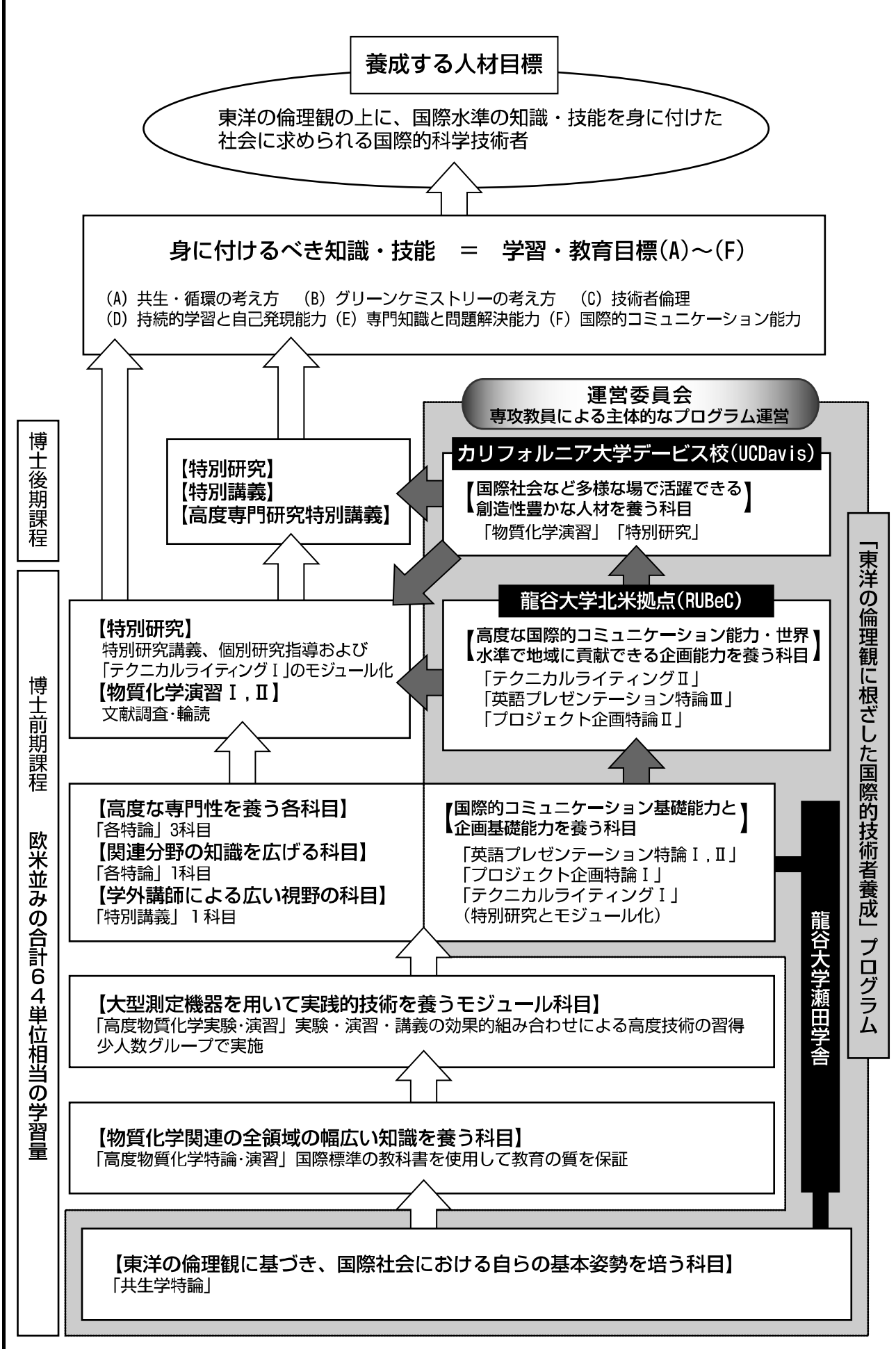
本プログラムは上記の「4. 国際的コミュニケーション能力」の養成を目的とする教育課程として実施するものであり、専攻教員で構成される運営委員会により主体的に管理・運営され、龍谷大学瀬田学舎および龍谷大学バークレー学舎(Ryukoku University Berkeley Center、RUBeC)での基盤教育をもとに、米国カリフォルニア大学デービス校(UCDavis)で応用能力を身に付ける**国際教育連携プログラム**である。

プログラムは、RUBeCで実施しているBIEプログラム(Berkeley Internship and English Program、5-weeks、semester)と既に3年間の実績のある理工学研究科とUCDavis工学研究科の交換留学プログラムをプラットフォームとしており、詳細は以下のようにまとめられる。

1. 共生・循環に基づいた思考法を身に付けるために、国際社会での自らの基本姿勢を培う**共生学特論**を設け、**東洋の倫理観に基づく考え方を学ぶ。**
2. 教育課程で習得する高い専門知識や技能を活用・応用するために、世界の水準で地域に貢献できる**専門応用能力を養成するプロジェクト企画論**を設け、本学舎とRUBeCにおいて、**国内外の企業におけるプロジェクトの企画・マネジメントの方法やその効果について学ぶ。**
3. 世界水準での自立的研究遂行能力や国際コミュニケーション能力を高めるために、特別研究に基づいた**テクニカルライティングや英語プレゼンテーションの演習**を設け、本学舎とRUBeCにおいて、**自らを国際的に表現できるコミュニケーション能力を身に付ける。**
4. 本学舎とRUBeCにおける基盤教育を基に**国際社会など多様な場で活躍できる創造性豊かな人材を養成するために、UCDavisでの演習・特別研究**を設け、semester 又は academic year の期間で、本学とUCDavisの専任教員が協力して指導に当たる**国際的連携教育**を実施する。

このように、自らの明確な基本姿勢を基に、国際水準の知識・技能を身に付けた社会に求められる**科学技術者養成**を教育課程の基本に置き、龍谷大学北米拠点RUBeCとカリフォルニア大学デービス校との密接な連携の下に、「東洋の倫理観に根ざした国際的技術者養成」を目指す、**国際教育連携プログラム**を構築する。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「共生をテーマとして」倫理観を持ち国際的コミュニケーション能力を持った研究者人材の育成目的を掲げている特長は優れている。また博士前期課程における64単位制、採点済み答案の相互点検等の工夫が行われている。研究者人材育成の具体化のためにはサイエンスの視点に基づく、更に充実した支援体制が必要である。

教育プログラムについては、「カリフォルニア大学デービス校との連携」の下に実施される国際教育連携プログラムにより、国際性豊かな東洋の倫理をベースとして有する研究者を育成しようとする点は評価できるが、この理念を具体化するためには、カリキュラムの工夫なども含め、更に努力が必要である。